

2014年度第2回「鳥居基金」助成実施報告 (TE-82)

氏名 (所属) : 吉田健太 (京都大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻)

助成 : 国内研究集会

集会名 : 2014年度火山性流体討論会

期間 : 2014年10月3日~10月5日

本文 :

火山性流体討論会は、火山ガス、マグマ、熱水系流体、地下水、地殻流体などの観測やモデリングの話題を中心として、その地球化学的側面はもちろんのこと地球物理学や地質学の視点も含めた様々な角度からの議論を行う討論会です。討論会の趣旨として、参加者全員の発表および議論参加を原則とし、各発表には十分な討論の時間をかけるようにしています。二泊三日の合宿形式で寝食を共にし、討論を充実させることで、学生を含む若手研究者と中堅研究者との親睦を深め、特に学生に広い視野を持つことの重要性や研究への魅力を感じてもらい、将来の地球化学を担う研究者を育成することを目的としています。

討論会は2014年10月3日(金)~5日(日)の日程で、群馬県吾妻郡草津町の草津セミナーハウスで開催しました。参加者は学生9名、PDを含む若手研究者4名、中堅常勤職4名の計17名で、東は東北大学、西は九州大学から集まって、16件の発表を行いました。討論会では学会発表と異なり発表の途中でも質問・討論を行う形式で口頭発表を行っており、一件につき40~90分程度の発表時間がかけられました。折しも御嶽山の噴火が世間で話題になっている時期でしたが、今年の開催会場のすぐそばにある草津白根山も、3月~5月に地震の多発や山体膨張などが見られたことから、討論会開催時には噴火警戒レベル2(火口周辺規制)となっていました。参加者の中にも、草津白根山を研究対象としている方や、御嶽山噴火の速報調査に参加していた方がおり、今回の討論会は、これらの火山に対してまさに今行われている調査の様子や解析の内容などをタイムリーに聞くことの出来る貴重な機会ともなりました。その他にも発表話題は沈み込み帯における深部流体とマントル物質の相互作用や、実験による岩石中の流体挙動の研究など多岐にわたり、夜間セッションまで専門分野の垣根を超えた活発な討論が繰り広げられました。

また、今回は草津白根山の麓での開催ということで、東京工業大学火山流体研究センター関係者のご協力のもと、討論会の一環として草津白根山の溶岩地形や、草津町内に見られる温泉および周辺施設を見学する巡検が行われました。強酸性の温泉を肌で感じることは勿論のこと、自治体が強酸性の温泉水と付き合っていくために設置している中和施設などを見学し、火山・温泉とそれに関わる地球科学の役割というものを参加者一同改めて実感できたように思えます。

今年の討論会は昨年までに比べると参加人数がやや少なかったのですが、その分一つの発表話題に対して時間をかけて濃密な討論を行うことが出来たように感じます。来年度以降も会場の近隣・遠方を問わず各地から多くの参加者を募り、討論会を運営していきたいと考えています。特に学生の参加を促す上では、鳥居基金に代表される研究集会への助成制度の存在が大変大きいと感じております。今年度の火山性流体討論会も鳥居基金の

援助のおかげをもちまして成功裏に終えることが出来ましたことを、ここに深く感謝いたします。ありがとうございました。

提出日：2014年10月10日



集合写真



強酸性河川の中和施設を見学中のひとつ